

	一般的名称	報告の概要
140	レボホリナートカルシウム	化学療法治療歴のある局所進行または転移性結腸直腸癌患者5176例を対象としたオキサリプラチン単独及びオキサリプラチン/フルオロウラシル/ロイコボリン併用療法の6レジメンにおいて、26例が死亡した。
141	シロスタゾール	健康成人10例を対象とした無作為化非盲検交差試験において、シロスタゾールとイチョウの併用により、出血時間が有意に延長した。
142	エボエチン α (遺伝子組換え)	抗ヒ組み換え型エリスロポエチン抗体に関連した赤芽球ろう患者16例を対象とした試験において、14例がエリスロポエチンアルファを投与していた。
143	グリチルリチン・DL-メチオニン配合剤	一医療機関において10年間に経験した周期性四肢麻痺と低カリウム血性ミオパシー31例について検討を行ったところ、二次性低カリウム性ミオパシーの原因としてグリチルリチンの内服が挙げられた。
144	レボホリナートカルシウム	フルオロピリミジン/白金製剤/タキサン系薬剤による治療歴のある進行胃癌患者139例に対するフルオロウラシル/ロイコボリン/イリノテカン (FOLFIRI)により、好中球減少性敗血症により2例が死亡した。
145	クエン酸タモキシフェン	ホルモン受容体陽性患者の閉経後女性8028例を対象としたレトロゾールとタモキシフェンによる4つの術後補助内分泌療法Phase III無作為化二重盲検試験の5年間治療の比較の51ヶ月追跡の中間解析結果において、レトロゾール群で骨折、関節痛、高コレステロール血症、心血管イベントの発生率が高く、タモキシフェン群では血管塞栓症、子宮内膜の病理学的異常、ほてり、寝汗、陰出血が多かった。
146	アセトアミノフェン	インフルエンザに罹患した乳幼児において、アセトアミノフェンの使用は異常行動、痙攣、熱性痙攣、意識障害の発症リスクを高めることが示唆された。
147	レボホリナートカルシウム	前治療歴のある進行再発または転移性結腸直腸癌患者829例を対象にFOLFOX4、FOLFOX4/ベバシブマブ、ベバシブマブ単独のランダム化比較試験において、FOLFOX4、またはFOLFOX4/ベバシブマブ群でグレード3-5の有害事象が認められた。
148	ワルファリンカリウム	ワルファリンを長期投与された患者50例と非投与50例を対象としたレトロスペクティブ研究において、長期のワルファリン治療を受けた男性患者で組織石灰化の有意な増加が認められた。
149	タクロリムス水和物	HTLV-1関連脊髄症 (HAM)患者5例を対象としてタクロリムスの治療効果を検討したところ、細胞あたりのHTLV-1転写活性化因子の発現が増加し、成人T細胞白血病罹患率を増大させることが示唆された。
150	塩酸ミキサントロン	再発性視神経脊髄炎患者33例を対象とした免疫抑制療法の有効性の検討において、1例がミキサントロン初回投与33ヵ月後に骨髄性急性白血病を発症した。
151	塩酸ミキサントロン	活動性多発性硬化症患者292例を対象とした調査において、心筋梗塞により1例が死亡した。
152	ナルトグラスチム (遺伝子組換え)	再生不良性貧血に対する一次治療として免疫抑制療法を施行された840例を対象としたアンケート調査において、45歳以上の患者とG-CSF投与が骨髄異形成症候群あるいは急性骨髄性白血病のリスクであることが示唆された。
153	ホリナートカルシウム	治癒的切除を行った転移のない直腸癌患者1917例を対象とした併用療法の検討のためのPhase III試験において、フルオロウラシルボラス投与群、フルオロウラシル持続静注/放射線併用群、フルオロウラシルボラス投与/ロイコボリン/levamisole併用群において各5例ずつが死亡した。
154	メトレキサート	中枢神経系原発性脳腫瘍患者88例を対象とした高用量メトレキサート+シタラピンをベースとした全身的療法の第2相パイロット研究において、7例が治療関連の合併症により、死亡した。
155	レボホリナートカルシウム	前治療のない切除可能な転移性結腸直腸癌患者305例を対象としてフルオロウラシル/ロイコボリン/イリノテカン療法とフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン療法を比較したランダム化比較試験において、前群で3.3%が、後群で2%が死亡した。